

令和 6 年度
教育委員会の事務に関する点検・評価について

大 田 市 教 育 委 員 会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号）第 2 6 条第 1 項の規定に基づき、令和 6 年度における教育委員会の事務に関する点検及び評価の結果について報告します。

令和 7 年 1 2 月 1 日

大田市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
	1. 点検・評価の趣旨	1
	2. 点検・評価の構成	1
	3. 施策体系図	2
II	令和6年度における事務の管理及び執行状況	3
	1. 教育委員会の概要	3
	2. 教育委員会委員の活動状況について	4
	3. 主要事業等（新規事業抜粋）	8
	4. 主な取り組みの概要	9
	5. 「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価	12
III	外部評価者（学識経験者）の意見	38

I はじめに

1 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条規程に基づき、各教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされています。

大田市教育委員会では、大田市教育の基本理念や施策の方向性を示した「大田市教育ビジョン」の取組について、学識経験者の意見を得て、「教育委員会の事務に関する点検・評価」を実施し、本報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地方教育行政法）（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

（1）項目

点検・評価の対象項目を「大田市教育ビジョン」の施策とし、施策ごとに点検・評価をします。

（2）取組の基本方針

「大田市教育ビジョン」の【基本方針】を転載しています。なお、【基本方針】に掲げた事項を「実現」することが成果目標となります。

（3）令和6年度の取組の概要

令和6年度中に実施した主な取組の実施状況、成果等を記載します。

（4）評価、今後の対応

取組の概要や進捗状況を踏まえ、施策の評価、今後の対応を記載します。

（5）外部評価

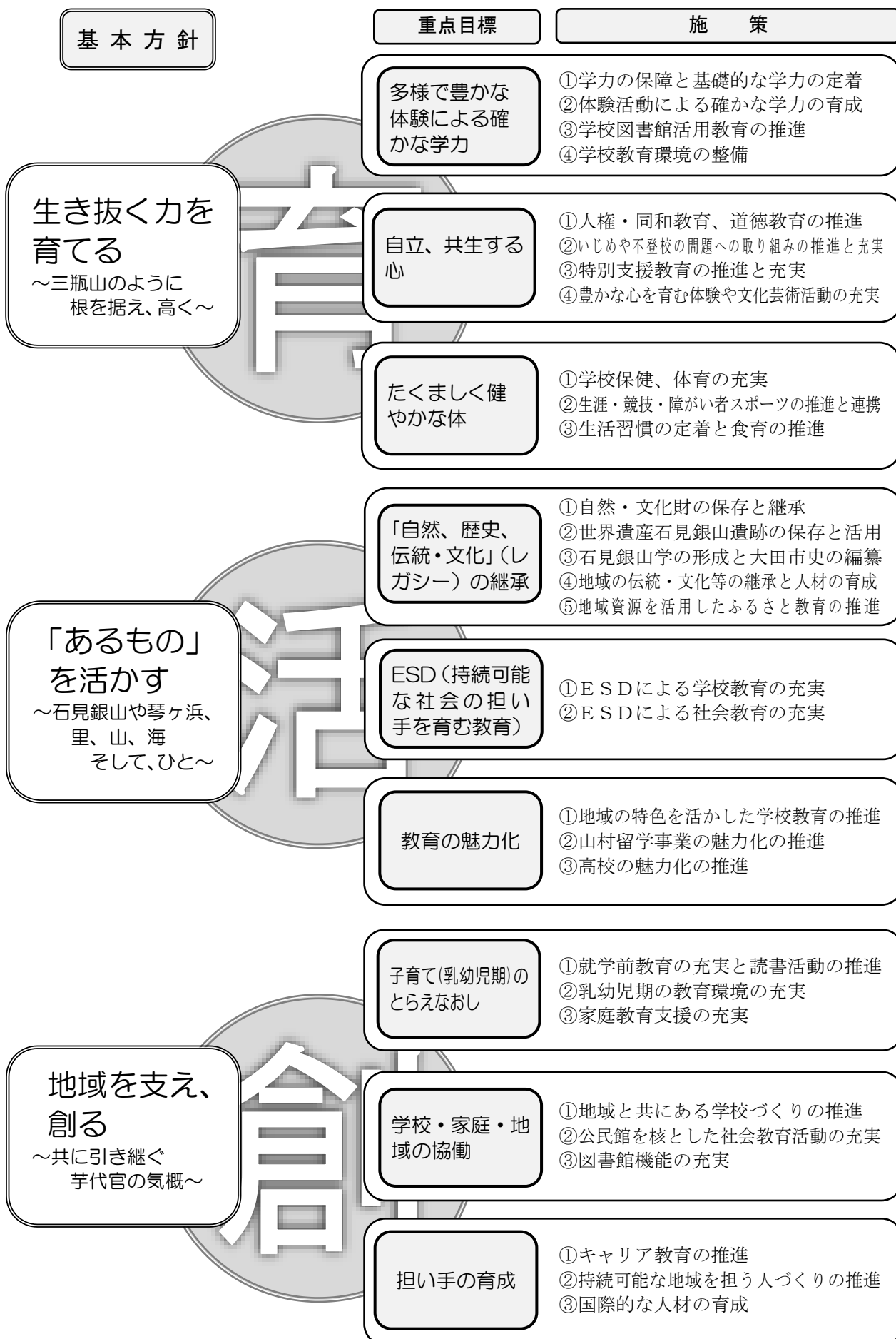
事務局における自己点検・評価を行い、この評価について、外部評価者による現地視察や事務局からの説明を基に評価・意見をいただきます。

（6）その他

この報告書のほか、別途、議会に提出した「主要施策の成果」のうち、該当部分についても、点検・評価の結果に関する報告書と見なすものとします。

3 施策体系図

大田市教育ビジョン基本計画施策体系



Ⅱ 令和6年度における事務の管理及び執行状況

1. 教育委員会の概要

(1) 教育委員会の目的

教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興を図るため、広く地域住民の意向を反映した責任ある教育行政を実現する。

(2) 教育委員会制度の仕組み

- ・ 教育委員会は、地域の学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置。
- ・ 首長から独立した行政委員会としての位置付け。
- ・ 教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行。
- ・ 教育長及び教育委員は、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命。任期は教育長3年、委員4年、再任可。

(3) 教育委員会の定数

教育長及び委員5人

(4) 教育長及び委員名簿（令和7年3月31日現在）

職 名	氏 名
教育長	武田 祐子
委 員（教育長職務代理者）	梶 伸光
委 員	仲野 義文
委 員	岩谷 律子
委 員	景山 浩充
委 員	宮里 陽子

2. 教育委員会委員の活動状況について

(1) 教育委員会会議の開催状況

① 教育委員会会議の開催回数

大田市教育委員会定例会規則により、定例会を12回開催（毎月1回）した。

② 教育委員会会議の審議項目

- 1) 学校教育又は社会教育に関する一般方針、教育関係職員の研修の一般方針及びその他教育行政の運営に関する基本的な方針の決定に関すること。

→ 事例なし

- 2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

→ 法改正、条例改正等に伴う規則22件の改正を行った。

- 3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。

→ 温泉津図書館の廃止を行った。

- 4) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。

→ 事例なし

- 5) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

→ 令和7年4月の人事異動に際し、市内小・中学校教員の内申を行った。

- 6) 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に関すること。

→ 令和5年度分の教育委員会の事務について、自己点検・評価及び外部評価を実施し、その結果を大田市議会へ提出した。

- 7) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関すること。

→ 補正予算、新年度予算の原案の決定を行った。

- 8) 附属機関の委員の任命及び委嘱に関すること。

→ 事例なし

(2) 総合教育会議の開催状況

- ① 日 時 令和7年3月13日(木)
- ② 場 所 島根県立男女共同参画センターあすてらす 3階 研修室
- ③ 協議事項 こどもたちの意見を取り入れる学校教育、地域づくりについて

(3) 会議の公開、情報発信

- ① 教育委員会
会議は原則公開とし、開催日を市のホームページに掲載するとともに会議録をホームページにて公開した。
- ② 総合教育会議
会議は原則公開とし、開催日を市のホームページに掲載するとともに音声告知放送にて周知した。また、庁内各部、学校長、公民館長、まちづくりセンター長へ案内した。(傍聴者29名)

(4) 教育委員会と事務局との連携

教育委員会委員に事前に資料を提供し、各委員が十分に内容把握のうえ、委員会での審議を行った。また、協議会の場を利用し、事務局職員との意見交換などを行った。

(5) 教育現場の視察及び各種会議への出席

令和6年6月27日 市町村教育委員会研究協議会
令和6年7月1日 石見銀山遺跡世界遺産登録記念日給食
令和6年10月7日 島根県市町村教育委員会連合会研修会

教育委員会 教育部の業務（教育委員会事務局組織規程 抜粋）

所属名	係名	業務
総務課	総務施設係	(1) 校舎その他の教育財産の営繕保全に関すること。 (2) 学校施設の利用及び確保並びに防火に関すること。
	学校再編係	(1) 教育委員会の会議、儀式に関すること。 (2) 教育委員会規則の制定又は改廃に関すること。 (3) 公印の管守に関すること。 (4) 教育委員会職員の任免、研修、福祉厚生に関すること。 (5) 所掌事務に係る教育行政に関する相談に関すること。 (6) 学校の設置、廃止及び学校再編、通学区域に関すること。 (7) 他課の主管に属さないこと。
学校教育課	指導研修係	(1) 校長、教頭の研修に関すること。 (2) 学校運営に関すること。 (3) 教育課程に関すること。 (4) 学習指導、児童生徒指導、児童生徒理解、特別支援教育に関すること。 (5) 学校図書館活用教育、学校人権・同和教育の推進に関すること。 (6) 教育研修センターに関すること。 (7) 学校図書館及び保育園、幼稚園の読書活動支援に関すること。
学事・魅力 化推進室	学事・魅力 化推進係	(1) 教育の魅力化に関すること。 (2) 就学、転退学、学齢簿に関すること。 (3) 学級編成に関すること。 (4) 教科書の無償給与に関すること。 (5) 教職員、児童生徒、幼児の保健衛生、安全、福祉厚生に関すること。 (6) 公立幼稚園に関すること。 (7) 小・中学校の教育推進に関すること。
社会教育課	社会教育・ スポーツ係	(1) 社会教育機関の設置、管理、運営、廃止に関すること。 (2) 社会教育機関の人事に関すること。 (3) 社会教育の企画及び調整に関すること。 (4) 社会教育、生涯学習情報の提供、相談に関すること。 (5) 社会人権・同和教育の推進に関すること。 (6) 多目的集会施設に関すること。 (7) スポーツ推進の企画及び調整に関すること。 (8) スポーツ関係団体との連絡調整及び指導育成に関すること。 (9) スポーツ推進審議会に関すること。 (10) スポーツ推進委員の活動に関すること。 (11) 社会体育施設に関すること。
	文化・図書 館係	(1) 芸術文化の振興に関すること。 (2) 文化団体との連絡及び指導、育成に関すること。

		(3) 大田市民会館施設に関すること。 (4) 図書館の管理運営に関すること。 (5) 視聴覚教育に関すること。
石見銀山課	世界遺産係	(1) 石見銀山基金に関すること。 (2) 施設管理に関すること。 (3) 石見銀山遺跡の保存管理、整備に関すること。 (4) 石見銀山遺跡の調査研究に関すること。 (5) 埋蔵文化財調査に関すること。 (6) 地域おこし協力隊に関すること。
	文化資源活用係	(1) 文化財保存活用地域計画に関すること。 (2) 文化財の指定・管理・活用に関すること。 (3) 埋蔵文化財の保存・活用に関すること。 (4) 文化財の管理・収蔵等に関すること。 (5) 伝統的建造物群保存地区に関すること。 (6) 史跡内の建造物に関すること。 (7) 施設管理に関すること。 (8) 日本遺産に関すること。
学校給食センター		(1) 給食の計画及び実施に関すること。 (2) 給食の輸送に関すること。 (3) 学校給食センターの管理及び運営に関すること。
山村留学センター	山村留学係	(1) 山村留学センターの管理に関すること。 (2) 山村留学センターの運営に関すること。

令和6年度の主要事業等(新規事業抜粋)

※新規事業は事業名に◎、事業内に新規内容がある場合は○

事業名		事業の概要	所管課
◎	学校再編事業	児童・生徒の減少、校舎・施設の劣化や教員の不足など、学校を取り巻く状況の変化を踏まえ、市内の学校再編を進める	教育部総務課
◎	五十猛・静間・鳥井小学校統合事業	3校の円滑な統合に向け、学校間の交流学习を実施するとともに、学校統合準備協議会の運営に対し交付金を交付する	教育部総務課
◎	大田小学校整備事業	老朽化が進む現校舎の建替えに向け、敷地内の地質調査及び測量設計、新校舎の基本設計を行う	教育部総務課
◎	学校給食費負担軽減事業	高騰する食材料費の増額分の負担を支援し、保護者負担を増やすことなく給食を提供するため、学校給食会計への支援を行う	学校給食センター
◎	世界遺産登録20周年・石見銀山発見500年記念事業	「石見銀山遺跡」が世界遺産登録20周年及び発見500年を迎える令和9年に向け、情報発信の強化や価値理解の促進を図るとともに、次世代への継承や地域活性化、観光誘客のための取り組みを実施する	石見銀山課
○	天然記念物管理保護事業	樹勢回復が見込めない「定め松」の伐採とその後の活用策の検討、国指定天然記念物「波根西の珪化木」及び「琴ヶ浜」の管理保護を行う	石見銀山課
◎	温泉津重要伝統的建造物群保存地区選定20周年事業	温泉津地区の重伝建選定から20周年を迎えることを記念し、シンポジウムの開催、町並み映像記録の作成や説明板の設置を行う	石見銀山課
◎	外国語通訳による魅力発信(海外交流促進)事業	海外からの来訪者に石見銀山遺跡の魅力と価値を的確に伝えるため、外国語通訳ガイドの経験を有する地域おこし協力隊員(1名)を配置する	石見銀山課
○	「文化はまちの力」推進事業	「第2期大田市芸術文化振興計画」に基づき、文化財保存団体等補助、大田市文化協会補助、芸術文化団体補助等を実施し、芸術文化によるまちづくりの推進を図る	社会教育課
○	山村留学推進事業	山村留学センターにおいて、長期・短期の山村留学事業、SNSを活用した山村留学の魅力化事業、センター開所20周年事業等を行う	山村留学センター

令和6年度 教育部の主な取り組みの概要

課名	主な取り組み
総務課	<p>○児童・生徒数の急減、校舎・施設の著しい劣化状況に加え、教職員不足による教職員の未配置など、学校を取り巻く状況の変化を踏まえた市内小・中学校の再編・統合について検討を進めるため、「大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会」を開催し、令和3年2月に策定した計画の見直しを行った。</p> <p>○見直しを行った「大田市学校のあり方に関する実施計画」に基づいて、再編を予定する各校児童・生徒の保護者や学校関係者、地域住民等への説明会や意見交換会を行った。第三中学校については、令和9年3月末の閉校を確認した。</p> <p>○五十猛小学校、静間小学校及び鳥井小学校の3校の統合について、校名、校章、校歌、制服、体操服等の基本的事項や、通学手段、学校運営にかかわる事項などを協議するため、3校の保護者や地域の代表者、学校関係者などで構成する「統合準備協議会」を開催した。また、統合後の校舎として使用する静間小学校について、令和7年度に実施を予定する環境整備工事に必要な実施設計を行った。</p> <p>○令和8年度から整備（建て替え）工事を予定する大田小学校について、整備基本計画を策定し、建築規模や施設計画等の基本方針を決定し、基本設計を行った。また、大田小学校は住宅密集地に位置することから、整備後の周辺環境への影響を考慮する必要があるため、現状の環境調査を行った。</p> <p>○公共施設改修及び修繕に関する優先度判定に基づき、小・中学校のプールや浄化槽設備、消防設備など、市内教育施設の修繕や対策工事を実施した。</p>
学校教育課	<p>○教員不足による正規の教員の未配置が生じる中、未配置の学校及び常勤に代えて非常勤講師を配置している学校に対して、教職員の校務負担を軽減するために、緊急校務支援員を配置した。6校に8名が配置され、児童生徒の学習支援や教職員の授業準備の補助など校務負担の軽減が図られた。</p> <p>○相談支援チームによる幼児教育施設や小・中学校への訪問による相談が定着してきており、早期からの支援・切れ目ない支援につながってきている。医療的ケア運営部会で市内小・中学校における医療的ケアの体制の整備について協議し、「医療的ケアが必要な児童生徒の受け入れのためのガイドライン」を作成し各校に配付することができた。</p> <p>○児童・生徒に「確かな学力」と「学ぶ意欲」を育むために、令和4年度から3年計画で、「しまねの学力育成プロジェクト事業」を受け、大田市学力育成プランに取り組んできた。県立大学の齊藤一弥先生の指導のもと、通覧指導、授業づくり講座、おおだ教育フォーラム等を実施し、授業改善を進めた。また、本物（専門家）に触れる豊かな体験事業、理科読の推進を行った。研修会を継続して実施したことで、教職員は授業改善への意識を高めることができた。また、児童・生徒の学びへの興味・関心、学ぶ意欲（理系教科）の高まりがみられた。</p>

学事・魅力化推進室	<p>○教育環境の向上のため、これまで学級担任用に配備していた指導者用端末について、専科教員等も使用ができるよう追加で160台の整備を行った。</p> <p>○これまで2月の教育月間に併せて実施していた教育フェスタについて、より多くの方に大田市の教育の現状を知っていただくことを目的として、10月に開催される「さんべ祭」と併せて、国立三瓶青少年交流の家を会場に実施した。当日はおよそ700名という沢山の方にご来場いただき、大田市教育の現状を知っていただく大変よい機会となった。</p> <p>○大田市議会の議場を会場として、大田市教育委員や大田市議会議員等の出席のもと、大田市中学校拡大生徒会を実施した。各中学校から生徒会役員が出席し、活発な意見交換が行われた。昨年度と同様、他校の実践を取り入れようと感じた生徒が多く、刺激を受けるとともに視野を広げる機会となった。放課後の時間を活用した取組のため、時間に限りがあり意見交換の時間が足りなかった。校長会とも連携し、時間配分や内容等も含め、よりよい会となるよう検討していく。</p>
社会教育課	<p>○社会教育推進センターは令和5年度末で廃止し、まちづくりセンターにおいて社会教育の視点を取り入れた事業を展開している。社会教育コーディネーターは、市内を5ブロック（中学校区）に分け、各ブロックに1名と社会教育課に1名の6人を配置し、これまで培ったノウハウを活かし、地域学校協働本部事業運営やまちづくりセンターが行う社会教育事業の伴走支援を行った。</p> <p>○地域学校協働活動の継続的な取り組みを推進するため、各小・中学校区に専任コーディネーターを配置し、社会教育コーディネーターが統括的な役割を担うことで地域と学校が連携・協働する体制が構築されている。また、ネットワーク会や専任コーディネーターの知見を深める研修会を開催し、連携を一層密にしていく。</p> <p>○7月23日に浜田地区社会教育推進協議会の研修会を連携協定を締結している国立三瓶青少年交流の家を会場に開催し、社会教育活動の推進を図った。</p> <p>○12月21日に連携協定を締結している日本体育大学との連携事業として、「子どもの成長にあわせた身体づくり」をテーマに講演会を開催。延べ43人の参加があった。幼児期・幼少期における成長の特徴を理解した身体づくり、トレーニング法を学ぶことができ、指導者だけでなく保護者においても資質向上に繋がった。</p> <p>○10月20日、三瓶高原クロスカントリー大会を5年ぶりに三瓶山西の原クロスカントリーコースにて現地開催した。延べ407人の参加があり、健康体力づくり、競技力の向上に寄与した。また、例年通り市内小・中学校でスポーツテストを実施し、小・中学生ともに50m走やシャトルランの結果が低調であることがわかった。</p> <p>○図書館においては、中央・仁摩両図書館で定例行事（おはなし会・企画展・テーマ展）や読書週間に合わせた図書館まつりなどを開催したほか、中央図書館では新たなイベントとして、ナイトライブラリーを開催した。また、仁摩図書館は、雨漏りからの保護対策として屋根改修を行った。併せて、夏の猛暑時にも施設利用者が安心・安全・快適に利用できるよう、空調設備の全面改修に着手した。定期的な書籍購入等により蔵書数は中央・仁摩・温泉津の3館合計で25万冊余りとなった。</p> <p>○市内芸術文化団体が継続して活動が行える仕組みづくりとして、大田市芸術文化団体等育成補助金を新設した。公益財団法人 大田市体育・公園・文化事業団へ受付・相談業務を委託し、24団体の活動支援が行えた。また、昨年度に引き続き、市内芸術文化団体との懇談会を開催し、市内団体同士の情報共有などを行った。その他、令和7年度に開催する「生涯学習まつり」についての討論を行った。</p>

石見銀山課	<p>○温泉津地区の重要的建造物群保存地区の選定20周年を記念して「シンポジウム」を開催し、温泉津地区の歩みを振り返りつつ、町並みの特徴と価値を再認識することができた。（令和6年7月6日、温泉津西楽寺本堂、参加者120名）</p> <p>また、こどもガイドと歩く「まちあるき」を開催し、町並みの特徴とこれまで修理を実施した建物の公開を行った。（同日、温泉津地区の町並み、参加者30人）</p> <p>○令和9年の世界遺産登録20周年・石見銀山発見500年に向け、「魅力化」及び「持続化」をテーマに、令和6年度から令和10年度にわたり、受入環境の整備、情報発信、人材育成等の持続可能な仕組みの構築について検討を行った。</p> <p>そして、海外鉱山遺跡交流・連携事業として、東アジア第一の金鉱山と呼ばれる金瓜石鉱山を有する台湾新北市を訪問し、2010年より交流・連携があり、開館20周年を迎えた「黄金博物館」と「石見銀山世界遺産センター」との間に、友好連携協定の締結を行った。</p> <p>また、2009年より交流のあるベトナムの世界遺産ホイアンで開催された「第20回ホイアン日本文化交流祭」に参加し、ホイアン市長等と面会し、令和9年の世界遺産20周年記念事業への参加と今後も交流を深めていくことを確認した。</p> <p>○海外からの来訪者に石見銀山遺跡の魅力と価値を伝えるため、外国語通訳ガイドの経験を有する人材を地域おこし協力隊として配置し、外国語通訳ガイドの組織化に向けた仲間づくり、ネットワークづくりを進めることができた。</p> <p>○定め松は、「定め松保存活用検討委員会」において現地確認を行い、三又に分かれた上半分を伐採し、幹は現地保存とする方向性を定めた。</p> <p>なお、伐採した枝の状態の良い部位は「衝立」に加工し、ふるさと納税の返礼品とした。その他の伐採材は板状に加工し、市民に無料頒布した。（応募者186人、抽選当選者52人）</p>
給食センター	<p>○令和2年4月に学校給食費の改定を行ったが、物価高騰が長期化する中、子育て世帯の保護者（幼稚園、小学校、中学校）への経済的な負担を軽減するため、国の臨時交付金を活用して現行の給食費を据え置くことができた。</p> <p>○学校給食センター設備更新事業として、調理場内では食缶類（飯椀、汁椀、角仕切皿、トレイ）の更新とボイラー設備、給湯設備の修繕を行い、調理場外では生ごみ処理装置の更新と排水処理設備（曝気槽排気装置修繕、汚水処理ブロワー更新）を整備し、安全・安心な学校給食の提供ができた。</p>
山村留学センター	<p>○長期山村留學生の募集活動、留學生の各種活動の調整・支援や地元関係者（受入農家）との連絡調整などを行った。</p> <p>○短期山村留學生の募集、参加者の活動支援、関係団体や関係機関との連絡調整を行った。</p> <p>○センターの諸活動をSNS（インスタグラム、フェイスブック）で積極的な情報提供を行った。</p> <p>○センター施設の運営及び施設の維持管理等を行った。</p>
人権推進課	<p>○市民一人ひとりの人権が尊重される社会の実現を目指し、様々な人権課題について考える機会とするため、人権を考える市民のつどいを開催した。（全5回、参加者：延べ892人）</p> <p>○市内全小学校15校で、人権の花運動を実施した。子どもたちが協力して花を育てることにより、生命の尊さを実感し、優しさと思いやりの心を体得することにつながった。</p> <p>○令和7年度新築工事実施予定の大田市人権センターの実施設計を行った。</p>

3. 「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価

「大田市教育ビジョン」基本計画（後期計画）（令和3年度～令和7年度）における取り組みに係る令和6年度の主要事業の実施状況について、以下の基準により自己評価等を行いました。

（１）評価等の基準及び自己評価結果

① 事業の評価（年度当初計画に対する達成度）

区分	評価の基準	達成度の目安	評価事業数
A	予定していた取り組みが実施できた。	80%～100%	3 5
B	予定していた取り組みがおおむね実施できた。	60%～80%未満	2 7
C	予定していた取り組みがあまり実施できなかった。	30%～60%未満	0
D	予定していた取り組みがほとんど実施できなかった。	0%～30%未満	0
合 計			6 2

② 今後の取り組み

区分	取り組み内容	評価事業数
拡大	事業規模を拡充して推進	0
継続	同様の取組を推進	6 0
改善	事業の内容を見直して推進	0
縮小	事業の規模を縮小して推進	2
終了	事業を終了	0
合 計		6 2

（２）「大田市教育ビジョン」基本計画における項目ごとの“成果指標”及び“主要事業の評価及び今後の課題”（次ページより）

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

基本方針 1 『生き抜く力を育てる』

重点目標 1 多様で豊かな体験による確かな学力

①学力の保障と基礎的な学力の定着

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
全国学力・学習状況調査における国語平均正答率(小学校)	62.0%	—	62.0%	61.0%	58.0%	65.0%	7.0%	全国以上	67.7%	
全国学力・学習状況調査における算数平均正答率(小学校)	65.0%	—	65.0%	57.0%	53.0%	60.0%	7.0%	全国以上	63.4%	
全国学力・学習状況調査における国語平均正答率(中学校)	73.0%	—	61.0%	66.0%	69.0%	51.0%	-18.0%	全国以上	58.1%	
全国学力・学習状況調査における数学平均正答率(中学校)	51.0%	—	49.0%	43.0%	45.0%	41.0%	-4.0%	全国以上	52.5%	
学校が楽しいと感じている児童の割合	81.6%	77.6%	80.0%	76.2%	73.2%	83.8%	10.6%	90%以上	84.8%	
学校が楽しいと感じている生徒の割合	82.2%	79.5%	84.7%	82.4%	86.2%	84.5%	-1.7%	90%以上	83.8%	
家庭で1時間以上勉強している児童の割合	56.2%	66.9%	64.0%	47.1%	44.8%	33.5%	-11.3%	70%以上	31.1%	
家庭で1時間以上勉強している生徒の割合	54.3%	61.5%	54.7%	50.2%	43.1%	31.9%	-11.2%	70%以上	32.6%	
家庭で2時間以上勉強している生徒の割合	14.4%	11.5%	14.9%	14.4%	12.1%	9.5%	-2.6%	30%以上	22.5%	
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った小学校の割合(国語・算数)	93.8%	—	93.4%	93.8%	70.4%	—	—	全国以上	—	
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った中学校の割合(国語・数学)	100.0%	—	100.0%	100.0%	100.0%	—	—	全国以上	—	

※【評価欄】年度当初計画に対する達成度

A: 100%～80%、B: 60%～80%未満、C: 30%～60%未満、D: 0%～30%未満

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
学力・教育力向上プロジェクト事業	令和4年度～令和6年度の3か年計画で、島根県事業「しまねの学力育成プロジェクト」を受け、大田市学力育成プロジェクトに取組む。 ①「能力ベースの授業づくり」を視点に授業改善を図り、授業の質の向上を図る。 ②本物（専門家）に触れる豊かな体験から学ぶ意欲の効用を図る。 ③理科読書の推進により、子どもの科学的探究心と言葉を育む。 ④子ども読書活動・学校図書館活用教育の充実を図る。 ⑤学力向上支援員の配置により、安心して学べる場を確保する。 ⑥学級集団アセスメント（アンケートQ-U）の実施により、安心して学べる場を確保する。	①学校訪問通覧指導（市内小・中学校9校27名の教員が指導を受ける） 授業づくり講座・研修会（10講座23研修会に994名の教員参加） おおだ教育研修会（市内小・中学校教職員200名参加） ②本物（専門家）に触れる豊かな体験事業 （市内小・中学校11校で実施。延べ800名参加） ③理科読書授業（市内4校で7回実施）・理科読書購入 ④調べ学習用図書購入等 ⑤学力向上支援員の配置（久屋小1名 計1名） ⑥アンケートQ-Uの実施（各校2回ずつ実施）	A	縮小	児童生徒の「確かな学力」と「学ぶ意欲」を育むため、「授業改善（授業の質の向上）」「児童生徒の学習に向かう力の醸成」「児童生徒が安心して学べる場の確保」等の取組を行った。 ・①により、教職員の授業改善への意識・意欲の高まりがみられた。全国学力調査、県学力調査等の結果から小学校6年生の国語・算数の平均正答率の大きな伸びがみられた。 ・①～③により、児童生徒の学びへの興味・関心、学ぶ意欲（理系教科）の高まりがみられた。全国学力調査、県学力調査等の意識調査から、「教科の学習が好き」「授業はよくわかる」等の肯定的評価が増えた。 ・③、④により、児童生徒の主体的な学びや科学的探究心を育む授業づくりにおける環境づくりに役立っている。 ・⑤、⑥により、児童生徒の学習に向かう意欲の向上やきめ細やかな指導支援の効果がみられる。 今後は、3年間の「しまねの学力育成プロジェクト」事業の取組の成果と課題を踏まえ、各学校の主体的な取組へのサポートを行っていく。引き続き、「教員の授業改善」「児童生徒の学習に向かう力の醸成」「児童生徒が安心して学べる場の確保」等の取組を推進し、児童生徒の「確かな学力」と「学び続ける意欲」を育む。	学校教育課
教育情報化推進事業、情報教育推進事業	Society5.0の時代に活躍できる児童生徒を育てるため、学校のICT環境の整備を行う。【GIGAスクール構想】	校内通信ネットワーク ・学校L3スイッチの維持管理 ・GIGAスクール端末の維持管理 ・電子黒板の維持管理 端末の整備等 ・指導者用端末の追加整備 ・指導者用端末OSのアップデート スクールサポーター ・GIGA端末の活用支援、ヘルプデスク等	A	継続	GIGA端末の更新 ICT機器の活用を幅を広げる 各学校の回線の強化、適切な電波速度整備 突発的なネットワーク環境が停止しないようにする予防策	学事・魅力化推進室
校務支援システム等管理費	浜田教育事務所管内の三市三町共同で導入した統合型校務支援システムが適切、効果的に運用されるよう維持管理、対応等を実施する。 また、併せて導入した、メール無害化やグループウェアについて維持管理等を実施する。	・校務支援システムの維持管理 ・メール無害化、グループウェアの維持管理	A	継続	校務支援システムの利活用の促進により、教職員の事務の効率化を図る。	学事・魅力化推進室

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の取組	今後の課題等	担当課
学校ネットワーク更新事業、学校ネットワーク管理費	継続的に安定した校務及び教育環境を維持するために、計画的な維持管理・整備を行う。	学校ネットワークの保守契約を結んだ。以下保守内容 ・運用状況管理 ・セキュリティ管理 ・ウイルスチェック管理 ・故障時復旧作業 ・ヘルプデスク	A	継続	将来的な学校数を踏まえた機器の整備	学事・魅力化推進室
就学援助事業	経済的理由により就学が困難な家庭に対し費用を給付	学用品費等、修学旅行費、給食費、PTA会費等支給 就学援助認定数 小学校：要保護8人 準要保護330人 中学校：要保護3人、準要保護201人	A	継続	さめ細かな周知及び関係機関との連携 経済的に困窮している世帯の把握と公平性の確保	学事・魅力化推進室
通学バス運行管理費	学校統合等により通学が困難となった地域へのスクールバス運行を実施	学校統合等により通学が困難となった地域へのスクールバス運行を実施（小学校：7校、中学校：4校）	A	継続	老朽化した車両の更新、継続した路線運行手段の確保	総務課
通学費補助	小学校、中学校に通学する遠距離通学者に対して公共交通機関使用者等にかかる経費を援助する	バス通学：公共交通機関に係る費用全額 自転車通学：500円/月（11か月） 【小学校】バス通学者8人 【中学校】バス通学者4人、自転車通学者29人	A	継続	通学費補助制度の周知	学事・魅力化推進室

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②体験活動による確かな学力の育成

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備考
計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	0校	0校	±0校	16校	-	全校
県立自然館や三瓶小豆原埋没林公園で体験学習をおこなった学校数	13校	13校	14校	15校	15校	15校	±0校	16校以上	-	小学校は全校
地域行事に参加している児童の割合	81.7%	67.8%	76.8%	70.1%	67.3%	-	-	80%以上	-	
地域行事に参加している生徒の割合	58.1%	60.9%	60.2%	49.8%	60.3%	-	-	70%以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
おおだ教育魅力 化推進事業、学 校業務改善事業	小・中学校や市内県立高校において地域色を活かした教育を進めるとともに、地域のひと・もの・ことを活かした体験活動により、ふるさとへの愛着を高め、次世代の担い手を育てるふるさと教育を推進する。	<p>【取組状況】</p> <p>小・中学校や市内県立高校での特色ある教育を推進するため、大田市の教育魅力化を図り、地域のひと・もの・ことを活かした体験活動により、ふるさとへの愛着を高め、次世代の担い手を育てるふるさと教育を推進するため、次の事業を実施。</p> <p>また、教職員の業務改善軽減のための人的措置（スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員・地域指導者）を行うことで、教職員の業務時間の短縮を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育推進事業【全小・中学校21校】 ・小学校新一年生児童へのキャリア・パスポートの配付 ・社会科見学等交通費補助【市内15小学校】 ・職場体験事業の実施【市内6中学校 対象二、三年生】 ・小・中学校ホームページ管理費 ・学校運営協議会運営交付金（コミュニティ・スクール推進事業） <p>【19協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおだ教育の日フェスタの開催【10月に開催される「さんべ祭」と併せて、国立三瓶青少年交流の家を会場に実施】 ・ふるさと夢未来講演会の開催 ・おおだ教育魅力化推進会議の開催【年2回】 ・大田市中学校拡大生徒会の開催 ・中学校部活動地域指導者活用支援事業【4校12部12名配置】 ・スクール・サポート・スタッフ配置事業【4校・4名配置】 	A	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度も、小・中学校において子どもたちが地域への誇りや愛着を深められるよう、ふるさと教育を教育課程に位置づけて実施した。また、2月の「おおだ教育月間」では、小・中学校や関係機関の特色ある取組をぎんざんテレビや大田市公式YouTubeにおいて配信した。また、令和5年度まで教育月間中に開催していた「おおだ教育フェスタ」を10月開催の「さんべ祭」と併せて開催することで、多くの方に来場いただけた、大田市の教育を知っていただく非常によい機会となった。今後は、より広く大田市の取組を知っていただくことと併せて、その内容や展開について検討していく必要がある。 ・未来志向の教育の推進の取組として、「ふるさと夢未来講演会」や「おおだ教育魅力化推進会議（愛称：おおだ未来☆夢ランド）」を開催した。講演会では、大田高校、第一中、第二中の生徒と一緒に参加し、講演のあと中学生と高校生を同グループに分けワークショップを行った。交流はもちろん、お互いの意見や考えを聞くことができる良い機会となった。 ・スクール・サポート・スタッフを配置したことにより、教職員の業務負担軽減となったが、今後も、より教職員の業務サポートができる体制を強化していく必要がある。 	学事・魅力化推進室、学校教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③学校図書館活用教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
図書館活用授業年間時間数(小学校1クラス当たり)	49.6h	59.8h	51.3h	52.9h	47.6h	47.2h	-0.4h	増加	-	
図書館活用授業年間時間数(中学校1クラス当たり)	19.2h	23.1h	26.1h	28.7h	35.8h	24.9h	-10.9h	増加	-	
一人当たりの学校図書年間貸出冊数(小学校)	108.7冊	108.9冊	108.2冊	116.1冊	104.8冊	104.2冊	-0.6冊	120冊以上	-	
一人当たりの学校図書年間貸出冊数(中学校)	27.0冊	27.1冊	20.4冊	17.1冊	22.1冊	22.0冊	-0.1冊	45冊以上	-	
学校図書館蔵書充足率(小学校)	78.8%	74.8%	81.1%	81.9%	84.1%	84.0%	-0.1%	85%	-	
学校図書館蔵書充足率(中学校)	81.9%	82.2%	88.7%	86.5%	90.5%	84.5%	-6.0%	85%	-	
学校図書館のエアコン整備率	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	80.8%	0.0%	90%	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
「読み調べ学ぶ力 力漲る学校図書館」事業	読書活動の推進及び学校図書館の効果的な活用・運営を図るため、学校司書等を配置し、児童生徒の読書活動を推進し、豊かな人間性や思考力・判断力・表現力等基礎的学力、情報活用能力を育む活動により、学校図書館機能の充実を図る。	読書活動の推進、学校図書館の効果的な活用を図るため司書の配置や、図書充実のために図書購入を行った。 ・小学校15校、中学校6校配置（内、兼務6名） ・学校貸出用図書の購入 287冊 ・学校図書館への新聞配置 小学生新聞12校、一般紙10校 ・年間平均貸出冊数 小学校104.2冊、中学校22.0冊 ・学校司書の研修の充実を図り、その専門性の向上と取組を支援した。（県主催研修3回、市教委主催研修会延べ13回） ・学校司書が授業を支援し、学校図書館を活用した授業の実施、子どもたちの情報活用能力の向上を図った。（通常の学級における学校図書館活用授業1学級あたりの平均時間小学校46.3、中学校24.2）	A	継続	蔵書数の基準達成を目指し、蔵書の保管、選別、入替を適切に行うとともに、学校統合と関連した蔵書計画の立案が必要である。 また、貸出冊数や学校図書館活用授業時間数の増加のため、館長のリーダーシップのもと、校内での連携が必要と考える。	学事・魅力化推進室、学校教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

④学校教育環境の整備

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
大田市交通安全プログラムによる通学路安全対策実施率	51.0%	49.0%	60.0%	69.0%	50.0%	60.0%	10.0%	80%以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
【再掲】教育情報化推進事業、情報教育推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
【再掲】学校ネットワーク更新事業、学校ネットワーク管理費	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
小学校耐震補強・改修事業、校舎等施設改修事業	安全・安心な学習環境を整備する。	【取組状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に実施した市内全小・中学校、幼稚園等の施設調査に基づき、修繕や改修の必要な箇所を把握し、緊急度や危険度に応じて実施を検討した。また、学習環境を維持するため、突発的に発生した故障等の事案については、その都度対応した。 【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・施設調査、営繕要望に基づき修繕及び改修を実施した。特に、躯体（外壁）に深刻な劣化が判明した仁摩小、静間小について、危険箇所の対策を実施し、安全性を確保した。 ・老朽化した建物及び設備の維持保全のため修繕等を継続して実施し、安全・安心な学習環境の維持に努めた。 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・教育施設においては、経年劣化等により修繕・改修の件数が年々増加しており、今後も増えることが想定される。 ・令和5年度より着手している「学校再編の考え方」の見直しに合わせて、施設の建替えや改修、修繕等について計画的な実施を検討する必要がある。 	総務課
安全安心な学校づくり事業	通学路の安全を確保するための通学路安全推進会議の実施 学校及び登下校時の児童生徒の安全を図るためのスクールガードリーダーの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校から通学路の危険箇所について情報を収集した。 ・各学校から収集した情報を基に道路管理者等関係機関及び学校関係者による通学路合同点検を実施し、安全対策について協議した。 ・スクールガードリーダー1名により、各小・中学校の巡回や情報交換を通じた安全指導を行った。 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全協会等関係機関との連携強化により更なる安全体制の推進を図る必要がある。 	総務課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標2 自立・共生する心

①人権・同和教育、道徳教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
自分にはよいところがあると思っている児童の割合	83.2%	70.9%	77.6%	84.9%	80.2%	83.1%	2.9%	増加	84.1%	
自分にはよいところがあると思っている生徒の割合	75.2%	68.8%	78.8%	77.4%	79.5%	81.0%	1.5%	増加	83.3%	
人の役にたつ人間になりたいと思っている児童の割合	95.3%	—	94.8%	93.9%	93.4%	95.8%	2.4%	増加	95.9%	
人の役にたつ人間になりたいと思っている生徒の割合	96.1%	—	95.2%	94.1%	97.1%	95.3%	-1.8%	増加	95.2%	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
教育相談事業	各校・園における人権・同和教育にかかわる取組の充実を図る。	【取組状況】 ・人権・同和教育主任者研修の開催【年2回】	A	継続	様々な視点から人権を考える機会として年2回の市教委主催の研修を充実させ、継続していくことが重要である。また、幼・小・中・高の縦の連携も図りながら進める必要がある。	学校教育課
人権啓発推進事業	平成26年度に制定した「大田市人権尊重まちづくり条例」に基づき、人権問題に関する講演会等の開催や人権啓発に関する広報活動を実施している。	【取組状況】 ・人権を考える市民のつどいの開催（全5回、参加者：延べ892人） ・人権の花運動の実施（市内全小学校15校実施）	A	継続	「人権を考える市民のつどい」では、多くの方に参加していただけるよう、開催時間や開催場所を工夫するとともに、引き続き様々な人権課題をテーマとして取り上げる。 また、地域における人権・同和教育を持続的に推進するためには、指導的役割を担う人材の育成が不可欠である。その体制づくりにも取組む必要がある。	人権推進課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②いじめ問題や不登校の問題への取り組みの推進と充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
いじめはどんな理由があってもいけないと思っている児童の割合	96.1%	-	97.6%	97.9%	94.6%	97.5%	2.9%	増加	96.7%	
いじめはどんな理由があってもいけないと思っている生徒の割合	94.6%	-	94.5%	97.6%	98.7%	95.3%	-3.4%	増加	80.4%	
不登校児童・生徒出現率	1.9%	2.1%	2.6%	3.7%	5.4%	6.6%	1.2%	1%以下	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
児童生徒支援事業	不登校児童生徒の学校復帰を支援し、課題を抱える児童生徒及び保護者への相談体制を整備する。 いじめの未然防止・早期発見・対応を行う。児童生徒・学校を取り巻くいじめや不登校等の諸問題への対応の充実を図る。	①教育支援センター運営 不登校児童生徒や不登校傾向児童生徒の学校復帰に向け、ケース会議等を行い支援の方法等を検討した。児童生徒や保護者への指導・支援により、改善傾向にある児童生徒も増えた。 【通室者 小学生1人、中学生11人】 ②スクールソーシャルワーカー活用事業 児童生徒を取り巻く様々な問題に対応するため、スクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関との連携・調整を図り、諸課題に取り組んだ。 【3名配置・支援児童生徒数 25人】 ③いじめ防止対策推進事業 いじめ問題対策連絡協議会【1回】 いじめ問題専門家会議【1回】 ④子どもと親の相談員配置事業【4名配置】	A	継続	・不登校児童生徒数は小学校、中学校ともに増加傾向にある。（全県的な傾向である。） 特に小学校低学年、中学校2年生で増加した。保護者の悩みを共有できる場の設定を行った。 ・教育支援センターについては、専門的知識を有する相談員・指導員の柔軟な対応や継続的な支援により、改善傾向にある児童生徒もいる。一方で、不登校児童生徒が増え、個別の支援体制が取りにくくなっており、学習方法を検討することが必要となっている。 ・SSWが家庭に直接働きかけ、保護者からの信頼を得るケースが増えるなど、家庭支援（保護者支援）において成果があった。 ・子どもと親の相談員は、学校へ行きづらい児童の受入れに有効であった。	学校教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③特別支援教育の推進と充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
特別支援教育に関する教職員研修実施回数	5回	0回	1回	2回	9回	8回	-1回	5回以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
特別支援教育体制推進事業	発達障がいを含む障がいのある幼児・児童・生徒の適切な教育的支援を進める。 ①就学支援委員会の開催 ②特別支援連携協議会の開催と大田市相談支援チームによる相談事業の充実 ③特別支援教育支援員、特別支援学級介助員の配置 ④新設特別支援学級の備品等整備 ⑤幼児期通級指導教室の設置 ⑥医療的ケア運営部会の設置（大田市特別支援連携協議会内に設置）	①就学支援委員会の開催【年4回】 ②特別支援連携協議会の開催【年1回】 相談支援チーム定例会の開催【年4回】 相談支援チームによる相談【延べ457回】 ③特別支援教育等支援員の配置【7校、13名】 特別支援学級介助員の配置【2校、5名】 ④可搬型階段昇降機（第一中）保守、幼児期通級指導教室用備品整備 ⑤幼児期通級指導教室【延べ指導回数191回】 ⑥医療的ケア運営部会を実施し、医療的ケア児に対する体制の拡充等を検討し、「医療的ケアが必要な児童生徒の受け入れのためのガイドライン」を作成し、各校に配付	A	継続	・相談支援チームによる幼児教育施設、小・中学校への訪問による相談が定着し、早期からの支援、切れ目ない支援につながってきている。 ・幼児期通級指導教室で、早期から個々の状態に応じて個別の指導・支援を行うことにより、スムーズな就学につながっている。また、令和5年度から対象を4歳児クラスの児童に広げたことにより、利用者が増加している。 ・支援員や介助員を学校に配置し、研修を行い、個々の支援の役割を明確にしたことにより、より個に応じた支援体制が取れるようになった。また、学校生活上の介助や学習活動上の支援を必要とする児童生徒が安心して生活したり、学習したりすることにつながった。 ・相談支援にあたるスタッフを増員した。発達検査ができる臨床心理士に協力いただき、より充実した就学支援ができるようになってきた。就学支援における検査のニーズが高く、今後、発達検査の実施回数を増やす必要がある。	学校教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

④豊かな心を育む体験や文化芸術活動の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
文化芸術による子供の育成事業実施校数	3校	2校	3校	0校	17校	5校	-12校	4校以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
小学校体育文化振興事業、中学校体育文化振興事業	小・中学校の体育文化事業の補助を行うことにより、学校等において、①本物の文化や芸術に触れたり、体験しながら、感性を高め、自主的に様々な活動に取り組み、取り組んだ体験活動や文化芸術活動の成果を発表する機会を設ける、②保健・体育では、運動意欲と体力の向上を図るとともに、中学校の運動部活動において活動の振興やレベルの向上に向けた意欲を喚起し、保護者負担の軽減を図る。	①児童生徒の輸送の経費や大会開催、吹奏楽部における県大会及び中国大会参加費等（移動、宿泊経費等）の補助を行った。 ・科学作品展開催費補助 30千円 ・連合音楽会開催経費補助 1,155千円 ・弁論大会補助 45千円 ・各種文化事業参加経費補助（マーチング・アンサンブル島根県大会含む）569千円 ②各種大会の参加費（移動費、宿泊費含む）や、中体連の運営補助 ・中体連運営費補助 185千円 ・各種大会参加経費補助（県総体、中国、全国大会含む）2,638千円	B	継続	保護者負担の軽減と活動の充実に向け、限られた財源の中でどこまで維持できるか不透明であり、事業内容の整理が必要となっている。	学事・魅力化推進室
本因坊道策顕彰等囲碁振興事業	大田市出身で棋聖と称えられる本因坊道策名人を顕彰し、囲碁の振興と普及を図り、囲碁によるまちづくりを推進する。	・クラブ活動等における囲碁教室：市内2校へ延べ114名の地元講師（大田市の囲碁を盛んにする会会員）を派遣した。 ・囲碁授業：仁摩小4回。日本棋院よりプロ棋士2名の派遣を受けた。 ・囲碁授業を受けた生徒の実力を試す場として定着しつつある仁摩小学校囲碁大会を開催した。	B	継続	囲碁を通じて、大田市の偉大な先人である「本因坊道策」を顕彰し、囲碁の振興と普及を図るため今後も継続して事業を進める。コロナ禍以降、本因坊道策記念囲碁大会が6年連続で中止となっているが、会員の高齢化などにより、大会の今後のあり方の検討が必要である。	社会教育課
「文化はまちの力」推進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」（2018～2027年）の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。大田市文化協会への活動補助を行う。	・大田市文化協会に対して、組織運営補助及び活動補助（文化祭、俳句大会、短歌大会、子ども書道展、市写真展等）を実施した。	B	継続	大田市文化協会の事業においては、会員の高齢化、会員数の減少が見込まれることから、新たな個人会員の獲得に努め、組織強化をする必要がある。	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標3 たくましく健やかな体

①学校保健、体育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による児童(小5男子)の体力合計点平均値	55.98点	-	56.64点	53.94点	56.12点	54.26点	-1.86点	全国以上	52.54点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による児童(小5女子)の体力合計点平均値	58.92点	-	57.77点	58.34点	56.36点	56.14点	-0.22点	全国以上	53.93点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による生徒(中2男子)の体力合計点平均値	41.39点	-	43.63点	44.76点	44.37点	41.67点	-2.70点	全国以上	41.69点	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査による生徒(中2女子)の体力合計点平均値	48.32点	-	53.22点	51.12点	48.43点	49.83点	1.40点	全国以上	47.22点	
運動やスポーツをすることが好きな児童(小5男子)の割合	69.4%	-	74.0%	74.0%	71.0%	71.0%	0.0%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな児童(小5女子)の割合	51.4%	-	60.0%	58.0%	54.0%	45.0%	-9.0%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな生徒(中2男子)の割合	59.5%	-	74.0%	77.0%	74.0%	61.0%	-13.0%	全国以上	-	
運動やスポーツをすることが好きな生徒(中2女子)の割合	44.3%	-	58.0%	56.0%	52.0%	45.0%	-7.0%	全国以上	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】小学校 体育文化振興事 業、中学校体育 文化振興事業	—	—	B	継続	—	学事・ 魅力化 推進室
スポーツ推進事 業	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの体力向上推進（学校スポーツテスト（小・中学校）一括実施）。 大田市スポーツ協会を通じて市民の健康体力づくりや競技力の向上に努める。 大田市健康体力づくり市民大会の実施。 指導者研修会等の開催、各種スポーツ団体が実施する研修会等への指導者派遣助成等。 三瓶クロスカントリー大会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 例年実施している子どもの体力向上推進事業（市内小・中学校スポーツテスト一括実施）を行い、大田市と県・全国の比較を行った結果、小・中学生ともに50m走やシャトルランの結果が低調で運動経験不足が目立つことがわかった。 大田市スポーツ協会補助（28競技団体、15地区体協、3学校体育団体） 大田市健康体力づくり市民大会（10競技種目、延べ504人が参加） 熱中症予防対策やコンプライアンスに関する研修を実施し、地域におけるスポーツ活動の活性化と健全な運営体制の構築に寄与した。（生涯スポーツ普及振興事業：4大会4団体に助成、リーダーバンク事業：5回延べ33人の講師派遣他） 三瓶クロスカントリー大会は、5年ぶりに三瓶山西の原クロスカントリーコースにて現地開催。個人の部だけでなくチームの部やゆるキャラ走対決と競技性を保ちながらもイベント要素を増やし、健康体力づくり、競技力の向上に加え、幅広い交流を図ることができた。（参加者407人） 令和5年度に連携協定を締結した日本体育大学との連携事業として、指導者の資質向上のための講演会を実施した。（参加者43人） 	B	継続	大田市スポーツ協会と連携し、スポーツ推進委員の活用方法など、スポーツに関連する事業推進体制の見直しを進める必要がある。 また、地域における指導者の人材育成や人材確保を計画的に推進するとともに、コンプライアンス研修などを継続的に実施し、指導者の育成を進めていく必要がある。	社会教 育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②生涯・競技・障がい者スポーツの推進と連携

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
スポーツ指導者の地域への派遣延べ人数	37人	33人	66人	77人	45人	33人	-12人	増加	-	
大田市健康・体力づくり市民大会参加者数	971人	732人	795人	863人	510人	504人	-6人	増加	-	
総合型地域スポーツクラブ数	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	±0団体	2団体	-	
総合型地域スポーツクラブ会員数	89人	97人	110人	86人	81人	77人	-4人	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】スポーツ推進事業	—	—	B	継続	—	社会教育課
スポーツ選手強化育成事業	トップアスリートと触れ合う機会を設定し、スポーツ活動の活性化を図る。	①夢授業（島根スサノオマジック） 開催日時 令和6年11月20日（水） 訪問学校 鳥井小学校、仁摩小学校、静間小学校、温泉津小学校 ゲスト等 島根スサノオマジック 安藤 哲哉選手 他7選手	B	継続	今後広く市民に対してスポーツの活性化を図れるように事業のあり方について検討する必要がある。	社会教育課
大田陸上競技場公認検定事業	・陸上競技場4種公認（日本陸上競技連盟）廃止届提出（公認期間：平成30年9月10日～令和5年9月9日）のため競技用備品のリース代。 ・市陸上競技場維持管理の会設置（令和5年7月）	令和5年度に引き続き市陸上競技場維持管理の会により7月下旬から8月上旬に陸上競技場の整備を実施した。	B	継続	引き続き市民に利用していただけるよう維持管理していく必要がある。	社会教育課
体育施設等整備事業	体育施設（総合体育館、大田市民第2球場、陸上競技場、クロスカントリーコース等）の整備	・富山地区体育館トイレ修繕 他	B	継続	総合体育館のトレーニング機器が老朽しており、計画的整備が必要である。 小学校の統廃合に伴い、地区体育施設の数が増加することが見込まれる。各体育施設の維持管理の在り方を検討する必要がある。	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③生活習慣の定着と食育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
平日2時間以上、テレビ、ビデオ等を見たり、聞いたりしている児童の割合	48.4%	48.1%	-	-	-	-	-	20%以下	-	
平日2時間以上、テレビ、ビデオ等を見たり、聞いたりしている生徒の割合	46.0%	40.8%	-	-	-	-	-	20%以下	-	
平日2時間以上、テレビゲーム(スマートフォン等を使ったゲームを含む)をしている児童の割合	55.5%	-	52.4%	32.8%	-	-	-	20%以下	-	
平日2時間以上、テレビゲーム(スマートフォン等を使ったゲームを含む)をしている生徒の割合	50.1%	-	59.5%	54.8%	-	-	-	20%以下	-	
朝食を毎日食べている児童の割合	98.9%	96.0%	97.2%	96.8%	94.6%	95.0%	0.4%	増加	93.7%	
朝食を毎日食べている生徒の割合	95.0%	94.4%	94.8%	95.3%	96.6%	96.5%	-0.1%	増加	91.2%	
学校給食の地産地消率	63.0%	61.7%	56.7%	77.4%	76.2%	74.4%	-1.8%	70%台	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
学校給食センター運営事業	①旬の地元食材を利用した学校給食の提供 ②学校における食育の推進	〔取組状況〕 ①生産者と地産地消コーディネーター及び献立作成を行う栄養教諭・学校栄養士との連携を図り、県産地支援課、JA生産販売課、地元加工業者等の協力により、地元食材を利用した学校給食を提供した。 ②家庭科、学級活動等や給食時間に栄養教諭が学校を訪問して食に関する指導を行った。 〔実績数値〕 ①学校給食の地産地消率は、74.4%（市内内産46.5%、県内産27.9%） ②栄養教諭等の食に関する指導 ・学級活動等で食に関するTT指導 67時間 ・給食時間における指導 24施設（延べ212回）	B	継続	①物価高騰に伴って食材の調達にも厳しい状況が続いているため、仕入れ価格を念頭に入れた食材の選定が必要になっている。 また、現行の給食費を維持するため、学校給食摂取基準に基づく栄養バランスを考慮した献立の作成が求められている。 現在の物価であれば、給食費の値上げが必要である。 ②地元食材を学校給食で利用するためには、必要な量の確保が必要なため、JA生産販売課や加工業者との連携強化により安定した地元食材の供給体制、供給方法について、引き続き検討を進めて行くことが重要となっている。	学校給食センター

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

基本方針2 『「あるもの」を活かす』

重点目標1 「自然、歴史、伝統、文化」(レガシー)の継承

①自然・文化財の保存と継承

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
文化財保存活動団体数	16団体	17団体	17団体	17団体	17団体	17団体	±0団体	17団体	-	
野生動植物保全団体数	22団体	22団体	22団体	22団体	21団体	21団体	±0団体	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
天然記念物管理 保護事業	市指定天然記念物「定めの松」及び国指定天然記念物「琴ヶ浜」に関する保護事業、琴ヶ浜保存活用計画の策定委員会の開催。	・「定めの松」は令和5年度に市指定天然記念物の指定解除を行い、令和6年度に上部伐採を行った。 ・琴ヶ浜管理保護事業として、ビーチクリーナーによる清掃活動を継続実施した。	A	継続	定めの松は、史跡としての指定を検討していく必要がある。琴ヶ浜の清掃活動は引き続き実施する。 また、琴ヶ浜保存活用計画の認定申請を文化庁へ行う。	石見銀山課
埋蔵文化財調査 事業	大田市で所蔵・所在する埋蔵文化財（史跡・遺跡・発掘調査出土品）の整理及び台帳作成を行うとともに、公開活用する。また、開発工事等と埋蔵文化財・文化財の調整を行う。	・見る・知る・ふれる文化財講座（「古墳時代はじまりの頃の仁摩とその周辺」）開催 ・清石遺跡等、旧仁摩町の出土物の整理及び台帳作成 ・中央図書館での出土品展示	B	継続	埋蔵文化財をはじめ、市内にある文化財等を調査するとともに適切に管理し、市民に公開できる環境整備が必要である。	石見銀山課
大田市文化財保存 活用地域計画 策定事業	大田市文化財保存活用地域計画の策定に取組み、まちづくりや観光・防災などの他の行政分野と連携し、文化財の保存・活用と持続可能なまちづくりを進める。	・地域計画の推進を図るため、大田市歴史のまちづくり推進協議会の設置に向けた要綱を策定した。	A	継続	未指定文化財を含めた文化財の積極的な保存・活用の推進が期待される。	石見銀山課
【再掲】「文化 はまちの力」推 進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」（2018～2027年）の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。 各地域の無形民俗文化財、天然記念物保存団体、市内小・中学校愛護少年団への活動補助を行う。	・各種団体への活動補助金を交付した。（無形民俗文化財保存団体6団体、天然記念物保存団体4団体、文化財愛護少年団4団体）	B	継続	活動中止等の団体が3団体あった。コロナ終息後の活動再開ができるよう引き続き支援する。	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

②世界遺産石見銀山遺跡の保存と活用

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
石見銀山保全活用事業(ボランティア・協働)件数	4件	4件	5件	5件	5件	6件	+1件	増加	-	
石見銀山学習実施学校数	22校	22校	21校	22校	21校	21校	±0校	全校実施	-	
重伝建大森銀山地区特定物件の整備率	55.1%	55.2%	55.6%	55.9%	56.6%	57.7%	1.1%	57.0%	-	
重伝建温泉津地区特定物件の整備率	30.8%	32.3%	32.3%	33.1%	34.5%	35.3%	0.8%	36.1%	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
石見銀山遺跡総合調査事業	遺跡の価値向上、来訪者の増加・理解促進に向け、発掘調査・文献調査・テーマ研究等を計画的に実施するとともに、各調査で得られた成果を報告書にまとめて刊行する。また、成果及び出土品については世界遺産センターで公開活用する。	・ 枋畑谷地区(大森町)の発掘調査を実施 ・ 調査報告書として「石見銀山遺跡発掘調査報告書Ⅴ」を刊行 ・ 大久保間歩坑内の大釘3点の保存処理を実施	B	継続	・ 中長期調査計画に基づき、計画的に発掘調査を実施 ・ 価値理解の促進につながる調査地点の選定 ・ 調査成果の説明の充実による来訪者への満足度の向上	石見銀山課
石見銀山遺跡総合整備活用事業	①重点的整備による魅力向上、②安全対策の継続実施と拡充、③歴史的建造物の保存・活用、④持続可能な整備管理のための体制、手法の導入、⑤資産情報の積極的提供 の5つの方針のもと、遺跡の整備・修復等を実施	・ 金生坑～大久保間歩見学道の測量設計と、一部整備の実施。 ・ 佐毘売山神社周辺見学道の整備工事の実施。 ・ 整備検討委員会の開催	A	継続	・ 重点的整備により魅力を向上させるとともに、活用を図る ・ 安全対策の継続実施と拡充	石見銀山課
重要伝統的建造物群保存地区整備事業	伝統的建造物群保存地区である大森銀山地区と温泉津地区を保存するため、建造物等の修理・修景費補助を行う。	・ 大森銀山地区3件、温泉津地区3件の修理事業の指導及び間接補助 ・ 大森銀山地区の屋外消火栓の点検	B	継続	・ 歴史的町並み景観を良好に保存する。 ・ 歴史的建造物の保存・活用 ・ 地区内の空き家及び危険家屋の対策	石見銀山課
石見銀山学習支援の推進	石見銀山学習の基金等による学習支援の充実と副読本「わたしたちの石見銀山」の活用	・ 市内小・中学校21校が行った石見銀山学習に対し支援を行った。また、市外からも2校が実施した。 ・ 学習内容については、副読本や現地学習の手引きを作成し、事前学習や現地学習の取組支援を行った。	A	継続	より充実した学習内容とするため、副読本の内容の充実や学習プログラムの拡充を図る。	石見銀山課
I C T等による石見銀山多言語解説整備事業	「わかりにくい世界遺産」と称される石見銀山の状況を、観光庁の直接事業で支給された翻訳文をもとに「わかる世界遺産」となるよう、I C T等を用いた整備を行う。	・ これまで石見銀山世界遺産センターのホームページと展示解説パネル、QRコードを活用した現地説明板等を多言語で整備しており、引き続き運用している。	A	継続	コンテンツの整備や多言語対応により、わかりやすい情報発信と機能強化を図る。	石見銀山課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③石見銀山学の形成と大田市史の編集

取組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
石見銀山学講座開催回数	—	0件	2回	2回	2回	2回	±0回	増加	—	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
石見銀山学形成事業	石見銀山遺跡を中心とする地域遺産（文化財）の基礎情報の整理と発信等を行うとともに、市民への公開講座の開催や概説書の刊行による地域学の形成の促進を目的とする。	・編集会議を開催し、最終巻である『石見銀山学ことはじめⅦ継』の内容を検討した。 ・市内小・中学校での石見銀山学習を推進した。 ・市民向けに「石見銀山学講座」、「公開講座 ここまでわかった石見銀山」を開催し、調査研究成果や概説書の普及を図った。	A	継続	・刊行計画により概説書の編集、刊行を行う。	石見銀山課

④地域の伝統・文化等の継承と人材の育成

取組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
市民会館での企画・鑑賞事業の実施数	13回	16回	12回	14回	16団体	17回	+1回	増加	—	
市民会館での企画・鑑賞事業の入場者数	3,862人	1,399人	2,872人	2,649人	6,105人	4,788人	-1,317人	増加	—	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】「文化はまちの力」推進事業	第2期「大田市芸術文化振興計画」（2018～2027年）の具現化にむけ、芸術文化振興のための環境づくりや関係団体とのネットワークの構築を図る。 「難波利三・ふるさと文芸賞」の後継事業として「ふるさと そして 未来」作文コンクールを実施。 芸術文化振興計画推進事業として、鑑賞事業や大田市出身の文化人の継承、伝統行事の保存を実施。	・市内小・中学生を対象とした「ふるさと そして 未来」作文コンクールを実施し、小学生68点、中学生13点、合計81点の応募があった。 ・「おおだ教育月間」として、銀山テレビで作文コンクール授賞式や朗読の様子などの映像配信を行った。 ・大田市文化協会委託事業として、島根県出身の短歌指導の第一人者である寺井淳氏によるワークショップや出張出前シアターを実施した。 ・市内芸術文化団体が継続して活動が行える仕組みづくりとして、大田市芸術文化団体等育成補助金を新設した。文化の拠点施設を運営する公益財団法人 大田市体育・公園・文化事業団へ受付・相談業務を委託し、24団体の活動支援が行えた。 ・市内芸術文化団体の情報共有等を行うため、大田市芸術文化懇談会を開催した。	B	継続	大田市の文化財や文化人を顕彰し、発信していくことにより保存と継承を図る。 市内芸術文化団体が継続して活動が行える仕組みづくりを考えるため、引き続き、文化の拠点である大田市民会館とともに懇談会などを実施する。	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

⑤地域資源を活用したふるさと教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
ふるさと教育における地域講師の延人数	1,100人	662人	669人	584人	833人	734人	-99人	増加	-	
地域でのふるさと教育事業実施数	19件	16件	16件					増加	-	
【再掲】県立自然館や三瓶小豆原埋没林公園で体験学習をおこなった学校数	13校	13校	14校	15校	15校	15校	±0校		-	1-1-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	未来を担う子どもたちを健やかに育むため、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもを育むための体制づくりを充実させ、地域の教育力の向上を図る。	【取組状況】 ①地域学校協働本部事業 社会教育コーディネーターと各小・中学校区の専任コーディネーターが連携し、地域とのパイプ役となり、学習支援、環境整備、登下校の見守りなどのボランティア活動を中心とする学校支援活動を行った。 ②放課後子ども総合プラン推進事業 放課後子ども教室により、放課後や休日に学校の余裕教室やまちづくりセンター等を活用し、異なる年齢の子どもたちが集団で遊んだり、体験や交流する場を提供した。 ③家庭教育支援事業 子育てに関するワークショップを活用した講座や家庭教育に役立つ研修会等を提供し、子育ての捉え直しを行った。 【実績数値】 ①地域学校協働本部事業 5本部設置 地域ボランティア547人登録 ②放課後子ども総合プラン推進事業 市内5教室 参加人数延べ2,242人（うち、子ども1,866人） ③家庭教育支援事業 子育てに関するワークショップ実施回数 5回延べ約60人参加	B	継続	各学校の専任コーディネーターやボランティア、安全管理人の確保やコミュニティスクールとの効果的な協働・連携体制に努める必要がある。家庭教育支援について、子育てに関するワークショップのファシリテーターの養成が必要である。	社会教育課

令和6年度「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価

重点目標２ ＥＳＤ（持続可能な社会の担い手を育む教育）

①ＥＳＤによる学校教育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
ESD・SDGsの視点に立った学校での取り組みの実施数	15校	20校	18校	21校	21校	21校	±0校	全校	-	
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童の割合	46.9%	45.2%	48.4%	41.1%	63.0%	84.7%	21.7%	増加	79.5%	
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある生徒の割合	43.8%	43.7%	50.3%	44.8%	60.3%	75.9%	15.6%	増加	76.1%	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学校教育課
【再掲】石見銀山学習支援の推進	—	—	A	継続	—	石見銀山課

③ＥＳＤによる社会教育の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
ESD・SDGsの視点に立った公民館事業の実施数	93回	90回	83回					増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	—	—	B	継続	—	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標3 教育の魅力化

①地域の特色を活かした学校教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
【再掲】計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	0校	0校	±0校		-	1-1-②
【再掲】ふるさと教育における地域講師の延人数	1,100人	662人	669人	584人	833人	734人	-99人		-	2-1-⑤

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
高校コンソーシアム運営支援事業	市内県立高校（大田高校、瀬摩高校）の特色ある教育活動の支援による教育魅力化の推進や、高校と地域住民等の参画により魅力ある高校づくりに取り組む高校魅力化コンソーシアムの運営等の支援。	【取組状況】 ・大田市県立高等学校コンソーシアム運営支援補助金の交付 【実績数値】 ・大田市県立高等学校コンソーシアム運営支援補助金 200千円	A	継続	令和6年度も、人材の確保ができなかったことにより運営マネージャーの配置ができなかったことから、市による直接雇用以外の方の策も検討の必要がある。	学事・魅力化推進室
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室
就学前教育推進事業	乳幼児期の教育について統一カリキュラムの普及啓発を行うとともに、教育的効果の高い読書活動を推進するため、子ども読書活動推進員を配置し、市内幼稚園、保育園等への指導・助言を行う。	【取組状況】 ・子ども読書活動推進員を配置【1名】 ・子ども読書推進に係る園等訪問61回（理科読を含む） ⇒教育的効果の高い読書活動を推進するため、市内幼稚園や保育所等への指導、助言。 ⇒理科読の実施（大田幼稚園・水上保育園・サンチャイルド長久さわらび園・相愛保育園等） ・幼稚園、保育園貸用図書整備 貸出用購入冊数【108冊】 親子読書用図書貸出冊数【6,883冊】	A	継続	・啓発や図書資料の充実はさらなる推進が求められている。 ・未就学児が触れるため汚破損は回避であり、親子読書用図書購入費の増額が必要。 ・外国籍の未就学児向け図書整備も計画的に進める必要がある。 ・「理科読」の取組など、就学前から科学系の読み物に触れる機会をつくる。	学校教育課
【再掲】学力・教育力向上プロジェクト事業	—	—	A	縮小	—	学校教育課

令和6年度「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価

②山村留学事業の魅力化の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
山村留学長期留学生数	11人	13人	15人	11人	7人	13人	+6人	15人	-	
山村留学短期留学参加数	302人	7人	14人	37人	120人	96人	-24人	400人	-	
【再掲】計画期間中に長期宿泊体験活動をおこなった小学校数	16校	0校	3校	1校	0校	0校	±0校		-	1-1-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
山村留学推進事業	山村留学事業を大田市の魅力ある教育施策のひとつとして位置付け、事業の魅力化を推進。	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年事業である長期山村留学のほか、夏の山村留学（長期コース、自然体験コース、ファミリーコース）や一般募集活動を実施し、北三瓶を中心とした自然体験活動を実施した。 ・山村留学内容の周知については、施設見学の対応をしたほか、オンラインによる情報発信に努めた。 ・日々の活動は、積極的にSNSを活用して情報発信に努めた。 <p>【実績数値】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期留学生13人 ・短期留学生96人（夏の山村留学59人、親子体験留学37人） 	B	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・長期留学生及び受入農家の確保 ・持続可能な山村留学事業運営体制及び手法の構築 ・短期留学などの自然体験活動を実施する際のボランティアの確保 ・事業継続のための財源の確保 ・劣化する施設設備の安全対策（修理・改修） ・山村留学の魅力の情報発信（しまね留学との連携、各種説明会等への参加、SNSによる情報発信の継続） ・近隣の社会教育施設との連携推進による魅力あるメニューの創設 	山村留学センター

③高校の魅力化の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
大田市生徒が市内県立2高等学校へ進学する割合	56.0%	61.4%	62.3%	61.5%	65.0%	57.9%	-7.1%	増加	-	
市内県立2高等学校より就職する生徒のうち市内に就職する生徒の割合	45.2%	51.9%	51.6%	51.5%	39.6%	40.0%	0.4%	60.0%	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	—	—	A	継続	—	学事・魅力化推進室

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

基本方針3 『地域を支え、創る』

重点目標1 子育て(乳幼児期)のとらえなおし

①就学前教育の充実と読書活動の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
小学校1年生の問題行動件数	28件	35件	19件	31件	32件	22件	-10件	参考値	-	
就学前の読書活動のための図書館団体貸出年間冊数	7,829冊	7,790冊	7,811冊	7,966冊	7,737冊	7,000冊	-737冊	10,000冊	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】就学前教育推進事業	—	—	A	継続	—	学校教育課

②乳幼児期の教育環境の充実

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】特別支援教育体制推進事業	『幼児期通級指導教室』発達に個別の課題等がみられる就学前幼児が、個々の状態に応じて個別の指導・支援を早期に受けることで、生活上の困難の改善・克服を目指す。	令和5年度より通級対象幼児が5歳から4歳にも広がった。相談支援チームからつながるケースに加え、発達クリニックの医師からの紹介件数も増え、利用者が増加した。 令和6年度 利用者数18名 利用回数238回 事業内容の周知を目的とし、研修会を2回開催した。	A	継続	令和6年度より2名の幼児期通級担当者の内の1名は保育士が担うことになり、それに伴いこども政策課の事業が増えた。また、通級担当者が相談業務の事務局を担う等、業務量の増加が課題である。	学校教育課

③家庭教育支援の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
子育てに関するワークショップの実施回数	14回	8回	8回	7回	6回	5回	-1回	増加	-	
子育てに関するワークショップの参加者数	243人	83人	85人	125人	101人	60人	-41人	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	—	—	B	継続	—	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標２ 学校・家庭・地域の協働

①地域と共にある学校づくりの推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
コミュニティ・スクール指定校数	6校	7校	12校	20校	19校	19校	±0校	22校	-	全校
【再掲】地域行事に参加している児童の割合	81.7%	67.8%	76.8%	70.1%	67.3%	-	-	80%以上	-	1-1-②
【再掲】地域行事に参加している生徒の割合	58.1%	60.9%	60.2%	49.8%	60.3%	-	-	70%以上	-	1-1-②
見守り隊や環境整備など学校支援ボランティア数	448人	410人	473人	438人	591人	547人	-44人	増加	-	
【再掲】ESD・SDGsの視点に立った学校での取り組みの実施数	15校	20校	18校	21校	21校	21校	±0校	全校	-	2-2-①

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ教育魅力化推進事業	-	-	A	継続	-	学事・魅力化推進室
【再掲】学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	-	-	B	継続	-	社会教育課

②公民館を核とした社会教育活動の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
【再掲】ESD・SDGsの視点に立った公民館事業の実施数	93回	90回	83回					増加	-	2-2-②

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】学校・家庭・地域の連携による教育支援事業	-	-	B	継続	-	社会教育課

令和6年度「大田市教育ビジョン」取組状況の点検・評価

③図書館機能の充実

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
図書館貸出冊数(年間1人当たり)	5.0冊	4.3冊	4.7冊	4.3冊	4.1冊	4.2冊	0.1冊	6.9冊	-	
児童・生徒の年間図書貸出冊数(総数)	30,385冊	19,879冊	20,398冊	16,690冊	19,413冊	23,002冊	3,589冊	40,000冊	-	
保育所、幼稚園等への貸出冊数	7,829冊	7,790冊	7,811冊	7,966冊	7,357冊	7,000冊	-357冊	10,000冊	-	
図書館企画事業回数	138回	58回	31回	26回	123回	125回	+2回	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
大田市立図書館 管理運営費	市民や学校、企業へ資料を的確に提供する。また市民が自主的・自発的に学習活動する場の提供や企画事業の充実を図る。	参考となる資料や学習を深める資料の充実を図り、職員が市民の必要とする資料への橋渡し役となった。 また、例年のとおり、古文書を読む会、各種展示を実施したほか、ボランティアの協力を得て、おはなし会、ストーリーテリングを開催した。また、新たなイベントとしてナイトライブラリーを開催した。 中央図書館については、必要な修繕等を適宜実施した。	B	継続	幅広い世代が図書に親しむ機会を拡充するため、図書館を快適に利用できる環境整備が必要である。	社会教育課
図書館蔵書整備 事業	情報提供を行うために資料の充実を図る。	・利用者のニーズに沿った新刊購入や適切な資料の除籍を行い、蔵書冊数は以下の通りとなった。 ・大田市中央図書館 186,212冊 ・仁摩図書館 53,150冊 ・温泉津図書館 11,786冊 ・温泉津図書館の閉館に向けて、関係者・関係機関との協議、条例改正等を行った。	B	継続	今まで以上に市民のニーズを的確に把握した選書を行っていく必要がある。 郷土資料等のデジタル化の推進に向けて、環境整備や方針等を検討していく必要がある。	社会教育課
生涯学習センター改修事業	生涯学習センター（仁摩図書館）の雨漏り対策として屋根改修を実施するとともに、空調設備の全面改修を行う。	雨漏りが見られた生涯学習センター（仁摩図書館）の屋根改修を実施した。併せて、開館から20年が経過し不調が続いている空調設備の全面改修に着手した。	B	継続	利用者が施設を快適に利用できるよう環境整備に努める。	社会教育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

重点目標3 担い手の育成

①キャリア教育の推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
職場体験学習が有意義だったと思う生徒の割合	98%	—	—	—	97.5%	96.0%	-1.5%	100%	—	
職場体験実施事業所数	145箇所	—	—	—	91箇所	129箇所	38箇所	参考値	—	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】おおだ 教育魅力化推進 事業	—	—	A	継続	—	学事・ 魅力化 推進室

②持続可能な地域を担う人づくりの推進

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
公民館事業の地域活動における住民の参加者数	4,060人	2,310人	2,055人					増加	—	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み (R6年度実績)	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
【再掲】学校・ 家庭・地域の連 携による教育支 援事業	—	—	B	継続	—	社会教 育課

令和6年度 「大田市教育ビジョン」 取組状況の点検・評価

③国際的な人材の育成

取り組み・成果指標	指標値 (R元)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	前年度 比較	目標値 (R7)	全国平均 (R6)	備 考
まちづくりセンター等での国際交流事業実施回数	5回	8回	-		1回	3回	2回	増加	-	

主要事業	事業の内容	事業の具体的な取り組み（R6年度実績）	評価	今後の 取組	今後の課題等	担当課
英語指導外国青年招致事業	市内小・中学校へ外国語指導助手（ALT）を派遣し、教諭による外国語教科指導及び外国語活動の補助を行う。	・外国語指導助手5名が巡回訪問を実施。（1名はALTコーディネーター業務も兼ねる）。 学校への派遣日数（勤務日数/週） 大田小2.5、久手小1.5、長久小・静間小・朝波小・川合小・温泉津小・仁摩小1、その他小学校0.5日 第一中4、第二中2.5、大田西中1.5、その他中学校1 ・その他派遣実績 亀の子、久利放課後児童クラブ、仁摩保育園等 合計18回派遣	A	継続	令和2年度からの小学校での英語教育の本格的な実施に伴い、外国語指導助手の必要性は増している。	学事・魅力化推進室

Ⅲ 外部評価者の意見

1 評価者

清水 克典 (しまね女性センター 常務理事)

川村 美奈子 (大田市社会福祉協議会 地域福祉課)

河村 隆弘 (大田市PTA連合会 副部長)

2 評価者の意見

清水 克典 P39 ～ P40

川村 美奈子 P41 ～ P42

河村 隆弘 P43 ～ P44

令和6年度 大田市教育委員会の事務に関する点検・評価について

清水 克典

以下の意見は、点検・評価の主旨を踏まえ、10月27日の山村留学センターの視察や職員の皆さんとの意見交換などを基にまとめたものです。

評価・意見は6年度（単年度）事業が対象ですが、外部評価は初めてですので直接的には教育に関わりがないものがあること、また内容に偏りがあることをお許してください。

1. 事務局における自己点検・評価について

事務局の自己評価は、62の評価事業全てが達成度60%（B）以上でした。

点検・評価の結果は、市議会に報告・公表され市民の方々がご覧になりますので、実施事業の達成度が成果指標の増減にどう関わったのか、効果があったのか、課題はなにか、といったことを分かりやすく記載することが大事だと思います。

その点で、資料では実施事業の達成度と成果指標との関連がよくわかりません。

例えば、

①「学力テストの正答率、家庭での学習時間の確保」と

「校務支援システム導入事業（維持管理）、バス運行管理費等」の関係

②「通学路安全対策実施率」と「小学校耐震補強・改修事業」の関係

③「スポーツテスト値（50m、シャトルラン）」と「スポーツ推進事業」の関係

記載してある事業はそれぞれ大事な事業ですが、予算を使うものだけが事業ではありません。説明をお聞きするといろいろな取組みをしておられます。そうしたものも含めて成果指標と関連付けて分かりやすく記載してはどうでしょう。評価して終わりではなく次のステップに続くように。市民の方々が関心を持ち、議論出来るように。ご協力が得られるように。そういう報告書であることを期待します。

2. 基本方針について

(1)「生き抜く力を育てる」について

① 大田市は全国学力調査の結果を成果指標の一つにしておられます。

年一回の調査で学力の定着度合いが判定できるとは思いませんし、種々の理由もあると思いますが、6年度は中学校の国語の数値が前年度を大きく下回っているのが少し気になりました。

私たちが生きていくうえでは、他者との間でなんらかのコミュニケーションをとることが不可欠ですが、この不足が原因だとされる事件報道をよく目にします。

コミュニケーションの力は国語のテストだけで測定できるものではありませんが、私は「伝える力（話す、書く）」、「受け止める力（読み取る、聞き取る）」といった国語の力に大いに関係があると思っています。人権を含め相手方への配慮も必要でしょう。

子どもたちにはそういった力をつけてもらいたいです。

学力の定着については、テレビゲームやスマートホンの普及といった状況の中で、家庭での学習、読書や会話の時間をどう確保するのか、十分な栄養や睡眠をとらせるにはどうするか、学校だけではどうにもならない様々な課題があります。

教育委員会はそれらとどう関わっていくのか、「生き抜く力を育てる」ため大いに「あずって」いただきたいです。

- ② 大田市では以前から、石見銀山遺跡や大田市全体に関わる人権・同和問題に取り組んでおられます。市内では、「人権を考える市民のつどい」（市主催）や人権団体の研修会など多くの学習機会が提供されており、高く評価します。

私の職場では、職員に最低年1回の人権研修の受講を課しており、私も年5回違ったテーマで開催される市民のつどいの何れかの回に、必ず出かけることにしています。職員揃って参加しておられる市内の企業も多く見かけます。

7年度は市主催で「ビジネスと人権」という経営者向けの研修会も開かれると聞いており、今後も様々なテーマの研修会が開催されることを期待しています。

- (2) 「「あるもの」を活かす」について

視察場所となった山村留学センターについては、以前「入園の集い」や「収穫祭」にお招きいただいたことがあります。職場に届く「くにびき通信」やInstagramで学園の様子を見せていただいております。職員や地元をはじめ関係の皆さんのご努力ご支援には頭が下がります。

以前、楫野市長さんもたびたび「センターの子どもたちには元気をもらおう。」と言っておられました。私も同じ思いです。

ただ、「元気をもらおう。」のが大人だけなのはもったいないと思います。

私は、山村留学事業の大きな魅力の一つが、大田の子どもたちへの好影響だと考えます。同世代の他県の人と交わる。同じ国に生活する者同士ですから生活文化はそう大きくは変わりませんが、お互いの日々の生活やふるさとについて話すうちに、見過ごしていた大田の魅力を見つけることになるかもしれません。刺激も得るでしょう。実施可能な範囲でそうした取り組みを続けていただきたいと思います。

「そこにある」山村留学センターを「活かして」いただきたいと思います。

3. 終わりに

現行の「大田市教育ビジョン」は今年度（7年度）で終了し、今後新たな計画の策定に向けた方針等が検討されることと思います。

点検・評価の手法や成果指標をどうするかも含め、今後の進め方について内部でよく話し合っていたいただきたいと思います。

行政課題には直ちに対応できるもの、対応するには一定の時間が必要なもの様々ですが、諦めず日々チャレンジし、点検・評価により課題を見つけ、見直しを怠らず、成果に繋げていただきたいと思います。

令和 6 年度 大田市教育委員会の事務に関する点検・評価について

川 村 美 奈 子

令和 7 年 10 月 27 日、山村留学センターにて、令和 6 年度「大田市教育ビジョン」の施策について、教育委員会各課より取り組みの概要、評価、今後の対応等について詳細な説明を受け、意見交換を行いました。また始めに、山村留学センターセンター長より施設案内がありました。

以下、外部評価者のひとりとして所見を述べます。

○山村留学センターの施設案内・説明

昨年度より点検・評価を市役所での開催ではなく、大田市内の施設見学を兼ねての開催ということで、今年度は山村留学センターへ伺いました。私自身初めての訪問・見学で、貴重な体験をさせていただきました。

ここでは小学校 3 年生～中学校 2 年生を対象に、「長期山村留学（1 年間）」と「短期山村留学（1 日から）」を行い、令和 7 年度は 8 名（令和 6 年度は 13 名）の長期山村留学者を迎えておられました。留学中はメディア（テレビ、スマートフォン等）の持ち込み禁止、おやつなし、施設の掃除等も行い、子どもには厳しい環境になっているが、地域の方との交流、自然体験等と様々な経験を通して生きる力などを育てていくのにとっても魅力ある施設でした。ここで学んだ子どもたちがどう変化していったのか、例えば学力が伸びたとか、心の変化とか、データとしてあってもいいのかと思いました。

今後、様々な課題を抱える市内の児童生徒を対象に活用できないかなども検討中とのことでした。どんどん活用して行ってほしいと思います。

しかし、施設の運営には地域の方々の協力が必要、施設の劣化に対する修理・改修、財源の確保等と課題も増えてきていることで、維持が難しくなっている事も伺いました。

基本方針 1～3 すべてに当てはまるこの施設活用・運営を、今後も子供たちのために続けていきたいと強く感じました。

○学力の定着等について

年々学習内容や取り組み方法が変化する中、大田市でも ICT 機器を活用し、GIGA スクール構想の実現を目指して、多様な子どもたち一人ひとりに対応した学習への取り組みを進めておられます。ただ小学 1～3 年生までの低学年に対して必要なのか、どのくらい活用できているかは学校やクラスにより差が出ているのではないかという疑問もあります。各校による差が出ないよう先生への指導、専門職員の増員等、今後も対応をお願いいたします。

近年の学習は、暗記や計算を解くだけではなく、文章から読み解く力、考える力が必要になっていると伺いました。そのためか、読書に力を入れられていることを感じていました。理科読図書・調べ学習用図書の購入や、幼少期から本に触れるよう図書館イベントを増やす

など、工夫をされていることもわかりました。

また、学力を伸ばすには、生活習慣も大事となります。最近はメディアに時間を費やし、睡眠が削られている子どもたちも増えています。睡眠の質と時間の確保のため、講師を呼んでの睡眠学習をし、生活リズムの向上を意識させ、望ましい生活習慣を目指しておられました。食育についても授業に取り入れ、地産地消コーディネーターを配置し給食に大田市や県内の食材を7割使うなどに取り組んでおられ、地元の食材を使うことで、地元の生産者さんを支える事にもなり、更に生産者の顔も見えれば安心だと感じました。

睡眠や食事については、各家庭の生活事情もあるので、学校ができることには限りがありますが、保護者にもたよりやチラシ等を目にするすることで、少しでも意識が向き改善につながるとよいと思いました。

運動については、体育協会や総合体育館などと連携し、スポーツ活動やイベントを開催、また、例年の猛暑により回数が減少しているというプール学習は、今後近隣の施設を借りて行うなどを検討していると伺いました。昨今、小中高生が川や海でおぼれたというニュースをよく見ます。令和7年には、大田市の海岸での遊泳禁止となりました。禁止ではなく、自分で自分の命を守れるような力をつける導きがあればと思います。

○不登校・特別支援教育等の課題への取り組みについて

不登校になる生徒児童が年々上昇傾向にあり、理由はいじめによるものばかりではなく、様々な事情があり、個々に対応していかなくてははいけません。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、派遣指導主事が各校を訪問し連携を取っておられます。また、特別支援教育についても、様々なケースに対応しないといけなく、相談回数も増加傾向にあるとのことなので、支援員を増加する必要性を感じました。これらはデリケートな問題のため、個別で時間もかかることでしょう。細やかな対応をしていただいていることに感謝いたします。

○学校再編等について

児童生徒数の減少、校舎の劣化、教員不足と様々な理由から、統合は仕方のないことと感じます。それに向けて、校舎の整備、スクールバスの整備や運転手の確保など、安全で安心して通わせることのできる環境を整えたり、その他私たちには見えない部分で細かな動きがたくさんあったことでしょう。今後より良い学校生活となることを期待しています。

○終わりに

以上、ここで挙げたのはほんの一部ですが、様々な方面に取り組んでおられることに、感謝申し上げます。

変わりゆく時代の中で、やり方を変え減少した事業や無くなっていく事業も増えています。様々な理由の元変化していることはわかりませんが、果たしてそれでよかったのか、と思うこともあります。基本方針の特に「生き抜く力を育てる」が子どもたちには必要と私は思います。まさに方針の「あるもの」を活かし、「地域を支え、創る」を目指して、これからも未来の子どもたちのために引き続き、よろしくお願いいたします。

令和6年度 教育委員会の事務に関する点検・評価について

河村隆弘

ご説明を伺い、まず大田市の教育に関わる施策の多岐にわたる様子、そして細やかな点検・評価の項目の多さに驚きました。関係の皆様の日頃のご尽力に対し、一保護者としても心から感謝申し上げます。

点検・評価につきましては、当日もご指摘がありましたが、評価項目の上に示されている数値が必ずしも内容と一致しておらず、K P Iとしての性質が弱いものも見受けられました。そのような指標については参考数値として整理するなど、今後精査されることが望ましいと思います。個別の評価については、概ね適切に行われているものと感じました。気になった点を以下に記します。

- ・校舎等の施設改修については、改修要望について約60%しか対応できていないということで、B（概ね実施）と評価されていますが、予算拡充などの改善が必要な項目であると思います。
- ・いじめや不登校への対策は実施されA評価となっていますが、不登校児童は増加傾向にあります。原因の究明や対策の方向性については、さらに検討の余地があると思います。
- ・特別支援教育体制推進事業については、相談数が年々増加し対応が追い付かない現状があると伺いました。A評価とされていますが、課題感は大きいと感じました。

以下には点検・評価と直接関係がない部分もありますが、日頃感じているところ、また今回のご説明を伺って考えたことを、この機会に述べさせていただきます。

まず、学校再編につきましては、児童数の減少が著しい中、教職員の不足や校舎の老朽化などの状況を踏まえても、積極的に進めていくべきと考えます。「地域で育つ子ども」という観点では、地域側が主体的に取り組んでいる例もあります。教育行政と地域が連携し、地域の力を生かした取り組みを推進することが重要だと思います。

教員不足については、緊急校務支援員の配置など対応をいただいておりますが、教員の業務過多や、なり手不足・離職の原因を早急に分析し、先生方が心と時間の余裕をもって児童・生徒と向き合える教育環境を整えていただきたいと思います。また、点検・評価を含む各種報告資料の作成が、現場の業務を圧迫していないかも懸念しています。生徒一人ひとりに合わせた教育や、不登校・いじめ対応など先生方は非常に神経を使われていることと思います。そのためには、まず先生方の心身が健全であることが何より大切です。

また、増加する不登校児童・生徒については、学校復帰だけでなく、引きこもり状態とならないようにするための「居場所づくり」を、民間と協働して進めていただきたいと思います。

ICT については現在導入の過渡期にありますが、機材の取り扱いや不具合への対応などにおいて、ICT の専門技能を有する補助員が各校に配置されることが理想的です。現状では、機器の不具合により授業開始が遅れる、在宅生徒へのリモート授業で音声聞き取りにくい、映像が不鮮明であるといった事例もあるようです。すべての分野に無理に ICT を導入するのではなく、効率化が見込める領域において柔軟かつ選択的に活用していくことも重要だと考えます。

施設見学をさせていただいた山村留学センターでは、地域の協力のもと、自主性とたくましさを備えた子どもたちが育っていると感じました。国の補助金終了や受け入れ農家の高齢化などの課題はありますが、存続の方向を検討していただきたい、意義深い事業であると思います。

教育委員会の事務に関する点検評価

参 考 資 料

【資料１】令和６年度 主要施策の成果（省略）

【資料２】令和６年度 教育委員会審議案件等一覧

【資料３】令和６年度 教育委員会の所管する審議会等の開催状況

【資料４】各取り組みにおける主な報告書等一覧

【資料2】 令和6年度 教育委員会会議審議案件等一覧

(1) 審議案件

番号	件 名	提出日
1	大田市教育委員会事務局組織規程の一部改正について	4月30日
2	大田市教育委員会事務決裁規程の一部改正について	4月30日
3	大田市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について	4月30日
4	大田市体育協会補助金交付要綱の一部改正について	5月29日
5	大田市地域学校協働本部設置要綱の一部改正について	6月24日
6	大田市スポーツ推進審議会に対する諮問及び建議について	6月24日
7	大田市立小・中学校管理規則及び教職員の服務規則の一部改正について	7月26日
8	大田市スポーツ推進審議会からの建議書について	7月26日
9	大田市文化団体育成事業等補助金交付要綱の一部改正について	7月26日
10	令和7年度使用浜田地区教科用図書採択について	7月26日
11	令和5年度教育委員会の事務に関する点検・評価について	9月26日
12	市議会の議決を経ずに行った教師用指導書の購入について	9月26日
13	大田市歴史文化のまちづくり推進協議会設置要綱の制定について	9月26日
14	令和5年度教育委員会の事務に関する点検・評価について	10月22日
15	令和5年度教育委員会の事務に関する点検・評価について	11月28日
16	大田市立小学校及び中学校校区に関する規則の一部改正について	11月28日
17	大田市教育委員会表彰について	12月25日
18	校区外就学 許可の条件と基準の見直しについて	12月25日
19	校区外就学の許可について	12月25日
20	地方自治法第180条の7の規程に基づき行う協議及び補助執行について	12月25日
21	大田市山村留学センター事業実施要綱の一部改正について	12月25日
22	大田市山村留学センター負担金（食事代）徴収事務規則の一部改正について	12月25日
23	教育委員会感謝状の贈呈について	1月27日
24	大田市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について	1月27日
25	大田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則について	2月21日
26	調停の成立について	2月21日
27	外国青年招致事業に係る外国青年任用規則の一部を改正する規則について	2月21日
28	大田市立図書館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	2月21日

番号	件名	提出日
29	大田市学校給食に関する規則の一部を改正する規則について	2月21日
30	令和7年度 学校給食費について	2月21日
31	就学猶予について	2月21日
32	大田市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	3月21日
33	大田市立小・中学校の教職員の服務規則の一部を改正する規則について	3月21日
34	大田市学校教育振興事業補助金交付要綱の一部改正について	3月21日
35	大田市就学援助実施要綱の一部改正について	3月21日
36	大田市石見銀山基金事業費補助金交付要綱の一部改正について	3月21日
37	大田市教育委員会就学義務の猶予又は免除の手続きに関する規則の制定について	3月21日

(2)協議・報告事項

番号	件 名	提出日
1	大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会委員の変更について	4月30日
2	大田市図書館協議会委員の変更について	4月30日
3	大田市社会教育委員の委嘱について	4月30日
4	大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の変更について	4月30日
5	大田市学力育成協議会委員の変更について	5月29日
6	大田市就学支援委員会委員の変更について	5月29日
7	大田市いじめ対応専門家会議委員の変更について	5月29日
8	おおだ教育魅力化推進会議委員の委嘱について	5月29日
9	第1回おおだ教育魅力化推進会議の開催について	5月29日
10	公財)大田市体育・公園・文化事業団の経営状況を説明する書類について	5月29日
11	令和7年度島根県公立学校教員採用候補者「一般選考試験」第2次における面接員の推薦について	5月29日
12	令和6年度島根県市町村教育委員会連合会の役員推薦について	5月29日
13	6月大田市議会定例会における一般質問について	6月24日
14	6月補正予算について	6月24日
15	学校基本調査における児童生徒数について	6月24日
16	熱中症対策と部活動ガイドラインについて	7月26日
17	社会教育の方針と事業について	7月26日
18	9月補正予算について	8月28日
19	令和6年度全国学力調査結果について	8月28日
20	公財)大田市体育・公園・文化事業団の経営状況を説明する書類の市議会9月議会への提出について	8月28日
21	第20回ホイアン日本文化交流祭への参加について	8月28日
22	山村留学における保険料の誤徴収について	8月28日
23	9月大田市議会定例会における一般質問について	9月26日
24	おおだ教育フェスタについて	10月22日
25	三瓶高原クロスカントリー大会について	10月22日
26	作文コンクール2024の実施について	10月22日
27	12月補正予算(案)について	11月28日
28	大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について	11月28日
29	12月定例議会における一般質問について	12月25日

番号	件 名	提出日
30	「ふるさと そして 未来」作文コンクール 審査結果報告	12月25日
31	教育委員会の権限に属する事務の一部を市長の補助機関たる職員に補助執行させることについて	1月27日
32	令和7年大田市二十歳のつどい開催状況	1月27日
33	令和6年度3月補正予算（案）について	2月21日
34	令和7年度当初予算（案）について	2月21日
35	専決処分事項の報告について	2月21日
36	第84回国民スポーツ大会（島根かみあり国スポ2030）における中央競技団体正規視察について	2月21日
37	3月大田市議会定例会における一般質問について	3月21日

【資料3】令和6年度 教育委員会の所管する審議会等の開催状況

1 総務課所管

1) 大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会（委員数：17名）

【第7回】 ▽期日 令和6年4月26日（金）

- ▽議事
- （1）三瓶地区の学校のあり方について
 - （2）第三中学校について
 - （3）高山小学校・大森小学校について
 - （4）「第一中学校」及び「第一中学校区の小学校」について
 - （5）「第二中学校」及び「第二中学校区の小学校」について

【第8回】 ▽期日 令和6年5月30日（木）

- ▽議事
- （1）高山小学校・大森小学校について
 - （2）「第一中学校」及び「第一中学校区の小学校」について
 - （3）「第二中学校」及び「第二中学校区の小学校」について
 - （4）温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について

【第9回】 ▽期日 令和6年6月26日（水）

- ▽議事
- （1）温泉津地区及び仁摩地区の小中学校について
 - （2）学校のあり方に関する実施計画の見直し（案）について

2 学校教育課所管

1) 大田市いじめ問題対策連絡協議会（委員数：14名）

▽期日 令和7年3月13日（木）

▽議事 市内小・中学校におけるいじめ防止に係る現状と課題について

2) 大田市いじめ問題対応専門家会議（委員数：6名）

▽期日 令和6年12月19日（木）

▽議事 いじめ問題への対応について専門家を交えた意見交換

3) 大田市特別支援連携協議会（委員数：15名）

▽期日 令和6年12月5日（木）

▽議事 特別支援教育について、関係機関が連携した一貫した支援について
「医療的ケア児受け入れに関するガイドライン」最終協議

4) 医療的ケア運営部会（委員数：9名）

▽期日 令和6年8月28日（水）

▽議事 市内の医療的ケアを必要とする児童生徒等の実施状況に関すること
「大田市小学校・中学校での医療的ケア児受け入れに関するガイドライン」（案）について

3 社会教育課所管

1) 大田市社会教育委員の会（委員数：7名）

【第1回】 ▽期 日 令和6年5月27日（月）

- ▽議 事 (1) 社会教育の方針と事業について
- (2) まちづくりセンターの事業について

【第2回】 ▽期 日 令和7年2月21日（金）

- ▽議 事 (1) まちづくりセンターの事業について

2) 大田市スポーツ推進審議会（委員数：9名）

【第1回】 ▽期 日 令和6年6月19日（水）

- ▽報 告 令和5年度事業報告について
- ▽協 議 令和6年度事業計画・概要について

【第2回】 ▽期 日 令和7年3月10日（月）

- ▽報 告 令和6年度事業報告（見込み）について
2030 島根かみあり国スポ・全スポについて
長久野球スポーツ少年団について
- ▽協 議 令和7年度事業計画・概要について
第3期スポーツ推進計画 策定要領について

3) 大田市立図書館協議会（委員数：6名）

【第1回】 ▽期 日 令和7年1月29日（水）

- ▽報 告 令和6年度大田市立図書館運営状況について
大田市立図書館に関するアンケートの実施について
- ▽議 事 令和7年度大田市立図書館運営計画（案）について
温泉津図書館について
大田市立図書館運営方針・大田市立図書館資料収集方針の見直しについて
- ▽その他 生涯学習センター・仁摩図書館の改修工事について
第4次大田市子ども読書活動推進計画の策定について
令和7年度大田市立図書館協議会のスケジュールについて

4 石見銀山課所管

1) 大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会（委員数：10名）

- ▽期 日 令和6年5月17日（金）
- ▽議 事 温泉津伝建地区における伝統的建造物(建築物)の新規特定について
- ▽報 告 (1) 令和6年度修理事業
(2) 大森銀山地区の橋梁修景
(3) 危険家屋化している特定物件の対応について

2) 石見銀山遺跡整備検討委員会（委員数：10名）

- ▽期 日 令和6年8月8日（木）
- ▽報 告 (1) 令和5年度の整備事業
(2) 登録20周年・発見500年に向けた重点整備
- ▽協 議 (1) 令和6年度の整備事業

3) 石見銀山景観保全審議会（委員数：11名）

審議案件が生じなかったことにより開催実績なし

4) 大田市文化財保護審議会（委員数：7名）

【第1回】▽期 日 令和6年8月7日（水）

▽報 告 （1）令和6年度の事業計画について
（2）大田市所蔵の民俗資料について
（3）坂灘古墳の保存について
（4）定めの松の今後の活用について

【第2回】▽期 日 令和7年3月24日（月）

▽報 告 （1）令和6年度の事業成果について
（2）大田市指定文化財指定候補物件について
（3）温泉津湯治場の史的調査研究について

5) 大田市文化財保存活用地域計画策定委員会（委員数：12名）

令和5年度に要綱設置、令和6年度は開催実績なし

6) 琴ヶ浜保存活用計画策定委員会（委員数：9名）

令和6年度は開催実績なし

7) 定めの松保存活用検討委員会（委員数：8名）

【第1回】▽期 日 令和6年5月31日（金）

▽定めの松現地確認

▽議 事 定めの松の伐採方法について
伐採材の活用について

【資料４】各取り組みにおける主な報告書等一覧

番号	報 告 書 名	担 当 課
1	第2期大田市スポーツ推進計画 (後期計画：令和4年度～令和8年度)	社会教育課
2	石見銀山遺跡発掘調査報告書Ⅴ —大谷地区—	石見銀山課